

Model 12

総務省
政策統括官(統計基準担当)
国際標準分類専門官



たなか るみ
田中 留美
Rumi Tanaka

Profile

- 平成9年・総務庁入庁(II種(行政区分)採用)
関東管区行政監察局
行政監察・行政相談業務
- 平成10年・神奈川県行政監察事務所行政相談課
神奈川県内における行政相談業務
- 平成16年・総務省行政評価局評価監視調査官
少子化対策、年金問題等の政策評価、
行政評価・監視
- 平成17年・人事院短期在外研究員(アメリカ)
連邦政府機関GAOにおいて、政策評価制度等の調査・研究
- 平成20年・総務省行政管理局企画調整課行政手続・
制度調査室調査研究係長
行政不服審査法の法令改正
- 平成21年・行政管理局主査
外務省・防衛省の機構定員査定
- 平成23年・政策統括官(統計基準担当)統計専門職
国際統計業務
- 平成26年・政策統括官(統計基準担当)統計専門官
統計調査の審査業務
- 平成27年・～長男出産
育児休業(1年)
- 平成28年・政策統括官(統計基準担当)国際標準分類
～現在
専門官
標準統計分類の改正

※経歴一部省略

トライアル&

始めに

私の入省当時は、まだ女性職員は少なく、また、超過勤務を前提とした働き方が主流であった時代でした。そのため、将来的に家庭を持った場合の働き方に不安を感じることもあり、「自由が利く若いうちに何でもチャレンジしておこう。」と、入省後は可能な限り幅広い業務に取り組んできました。

二つの大きな節目

入省約10年後に一つ目の節目がやってきました。それは、人事院短期在外研究員としての米国派遣です。日本政府職員の身分を記した名刺一枚携えて、政府機関等にアポを入れ、拙い英語でインタビューを行い日米比較研究に取り組みました。ここで得た知識はいつしか古びたものになりますが、調査ノウハウや現地の人から受けた支援の有り難さは深く心に刻まれており、これらは10年以上経った今でも折に触れて思い出し、働く上でのヒントやモチベーションになっています。

二つ目の節目はその2年後、業務の特殊性ゆえ男性職員で占められる機構・定員査定業務への配属です。動きの速い政治動向を横目に、相手省庁と信頼関係を築きつつも機構・定員の管理を厳格に行うハードで緊張を強いられる日々でしたが、組織や人の成り立ちを通じて、国会、予算、法令等の勉強もできた貴重な経験になりました。

これらはいずれも、総務庁(当時)地域採用のII種女性職員として初めて巡ってきた機会でした。未知の領域に踏み込むのはプレッシャーですし、何より失敗が怖い。でも、「見る前に跳ぼう。」と前向きにチャレンジしてきました。実際に業務に就いた後は、勤務環境などに配慮をいただきつつも、性別に関係なく厳しく指導をしてくれる多くの上司に恵まれ、そこで得た知識や経験は今の私の財産となっています。

エラーでいこう

母となって

約1年の育児休業を経て復帰した現在は、公的統計の拠り所となる統計基準の企画・立案を担う部署に所属しています。勤務形態は、通常より2時間短い育児短時間勤務。さらに、立場的に班内の総括というマルチタスクが求められます。ですので、立ち止まって熟慮したいことがあっても、効率的に班として成果を挙げることを優先に部下に仕事を割り振っていかねばなりません。また、育児に関しても、我が子の世話は自分でいろいろと手を掛けてやりたいと思っても、圧倒的に時間が足りない。復帰当初は、理想の自分と現実のギャップに戸惑い、仕事も育児も手を抜き、職場や家族にしわ寄せがいくことを甘受しなければ両立はあり得ないのか、と悩みました。しかし、両立生活をこなす中で、①仕事は部下に思い切ってざっくりと任せても大丈夫。むしろ良いアイデアが出てくる、②家事や育児は、信頼のおけるベビーシッターや家事代行を利用することで、より高品質なサービスが提供される、と気づきました。自分のこだわりは、広い目で見れば、何かに決定的な影響を及ぼすほどのものではないということなのでしよう。

同時に夫と実家の協力も大切です。我が家の場合、夫は忙しく帰りが遅いので、夕方以降の子供の世話は頼れませんが、毎朝の送り届けは担当してくれており、とても助かっています。今後、子供の成長や仕事の繁閑に合わせて、無理のないよう家事

育児を分担し、仕事を持つ親であるからこそ分けることを子供に伝えていきたいと思っています。

悶々と仕事を引きずりながら保育園へお迎えに行っても、一目散に駆け寄ってくる子供の笑顔を見た瞬間に全てリセットされます。そんなパワーを子供からもらいながら、試行錯誤を繰り返しつつ、自分の力を発揮できるような着地点を希望を持って探ってみたいです。



一日の タイムスケジュール例

- 6:00 起床、朝食、身支度等
- 8:20 自宅出発(夫が子供を保育園へ)
- 9:30 登庁
- 10:00 室内勉強会
- 12:00 お弁当又は職員食堂で昼食
- 13:00 労働経済分野の大学教授へ
ヒアリング(都内大学へ)
- 14:30 調査研究について、シンクタンク
と電話打合せ
- 15:30 全体スケジュールの調整
- 16:45 退庁
- 17:45 保育園から子供をピックアップ
- 18:00 帰宅
- 18:30 子供と夕食、入浴、寝かしつけ
- 21:30 洗濯、翌日の食事準備、片付け
- 23:30 自分の時間、仕事(持ち帰った場合)
- 1:00 就寝

女性職員のメッセージ

「女性だから。」と心に蓋をせず、女性ならではの強くてしなやかなパワーを信じて、いろいろなことにチャレンジしてみるといいと思います。性別や経験の有無は、案外関係ない、開けた世界が待っているものです。